

『華文俳句選』

——瞬間を詠む中国短詩型の実験

呉
衛峰

東北公益文科大学総合研究論集第三十六号 抜刷

二〇一九年七月三十日発行

『華文俳句選』

——瞬間を詠む中国短詩型の実験

呉 衛峰

昨年秋、筆者は本誌に中国語二行俳句の実験を紹介し分析する論文を投稿した¹。それから間もなくの12月、実験の結晶として、『華文俳句選』が台北で秀威出版から上梓された。

本書は洪郁芬（台湾の女流詩人、俳人）、郭至卿（台湾の女流詩人）、趙紹球（在台湾マレーシア詩人）、永田満徳（日本の俳人）、そして筆者の五人による共著である。体裁としては、共著者五人の20首ずつの二行俳句が中心になるが、中国語と日本語の対訳の形を取っている。もっとも、永田の俳句は日本語で創作されたものが、中国語訳されている。

本書の巻頭には、東京大学名誉教授の川本皓嗣氏および台湾の著名な日本文学研究者である林永福氏による二つの序文が寄せられている。川本氏は序文（本書では中国語訳のみが掲げられている）中、俳句の国際化を紹介したのち、本書について、

本書の作者たちは、現代中国語で「華文二行俳句」の創作を試みている。季語のある二行書きで、俳句の「切れ」と「取り合わせ」を取り入れて、五七五の定型にこだわらず、俳句美学の本質を中国語で表現しようとしているらしい。一年間の試行錯誤もあったようだが、創作者と読者が今後、どんどん増えていくことを願っている。この果敢な試みを心から応援する。²

と著者たちを励ましている。

(1) 『華文俳句選』——瞬間を詠む中国短詩型の実験

序につづいて、筆者が代表として華文二行俳句の規則が記されているが、前回の論文ですでに紹介されたので、ここでは割愛する。基本は、川本氏の序に書かれたように、俳句の「切れ」と「取り合わせ」を取り入れることであり、また、現在と瞬間を詠むことが主眼とされている。

五人の俳句は春夏秋冬の四季に分かれているが、今後の発展を考えて無季俳句も数首載せている。その一斑を伺う意味で一人一句を紹介する。

○洪郁芬（秋）

夜夜重疊的思慕

一夜ずつ重なる思ひ

楓初紅

薄紅葉

○郭至卿（夏）

屋簷夏の風鈴

軒下の風鈴

午後打瞌睡的老人

午後居眠りの老人

○趙紹球（無季）

海口遲暮

港湾の日暮れ

情人橋上眺望的麗人

情人橋で眺める佳人

○吳衛峰（夏）

傍晚乘涼

夕涼み

掰腕子不輸給女兒

腕相撲我が子に負けまいぞ

○永田満徳（冬）

肌肉為男人的衣裳

筋肉はをのこの衣装

寒祭

寒祭

対訳であるので、もとの句の興趣は必ずしも全て日本語に現れているとは限らないが、二行華文俳句実験の意味を伺うには十分である。

本書のカバーは広告業界に長年勤めた趙によるデザインで、うっすらとした桜を背景に枯山水の石に蝶一羽が留まっているという、禅的瞬间をほのめかしている。値段は一冊300台湾ドルで、句集としては手頃であろう。購入するには、台湾のインターネット書店の「博客来」もしくは「三民網路」を利用するのが一般的で、日本国内であれば、東京の「東方書店」を通じても入手できる。

本書が華文二行俳句の嚆矢として、これからも個人句集もしくは共著が次々と世に問われるのを楽しみにしている。

注..

¹ 「中国語俳句の可能性——華文二行俳句の実験を中心に」（「東北公益文科大学総合研究論集」第35号、2018年12月）。

2 『華文俳句選』、6頁。

3 「中国語俳句の可能性」、(8)頁。